

認知症の人と家族への個別聞き取り調査結果概要

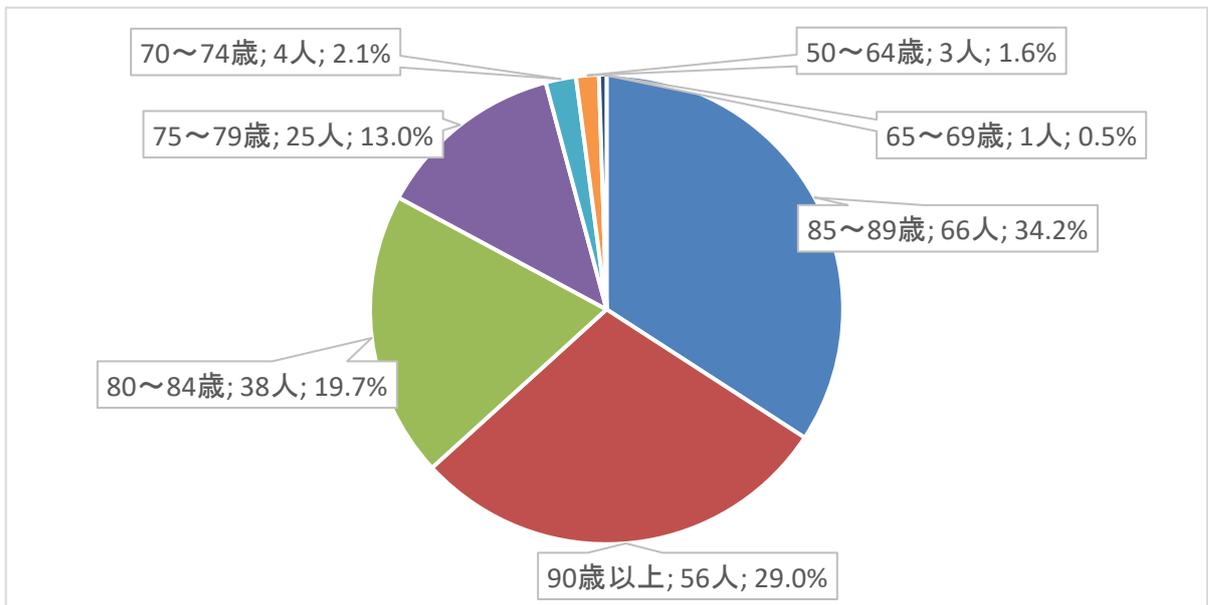
(1) 調査実数

	調査件数	本人	家族
要介護認定者とその家族	113件	113人	112人
要支援認定者とその家族	80件	80人	78人
合計	193件	193人	190人

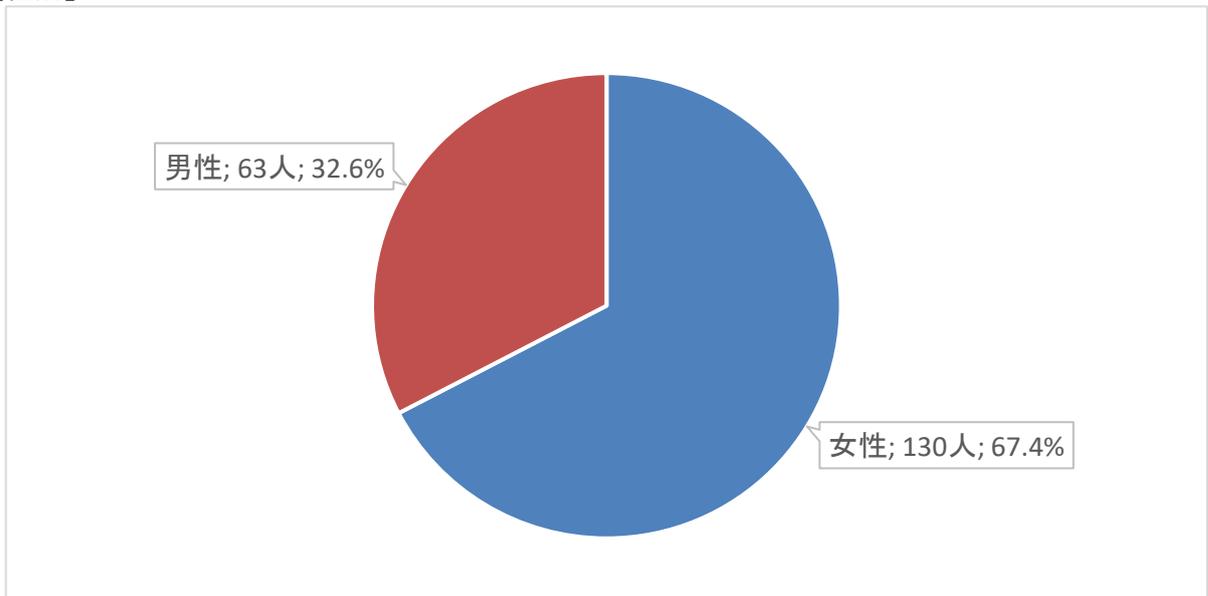
(2) 本人の年齢と性別

調査対象となる本人は、女性が130人、男性が63人で、女性は80歳以上の人数が多く、85～89歳46人、90歳以上44人となっている。男性では85～89歳20人が最も多い。

【年齢】

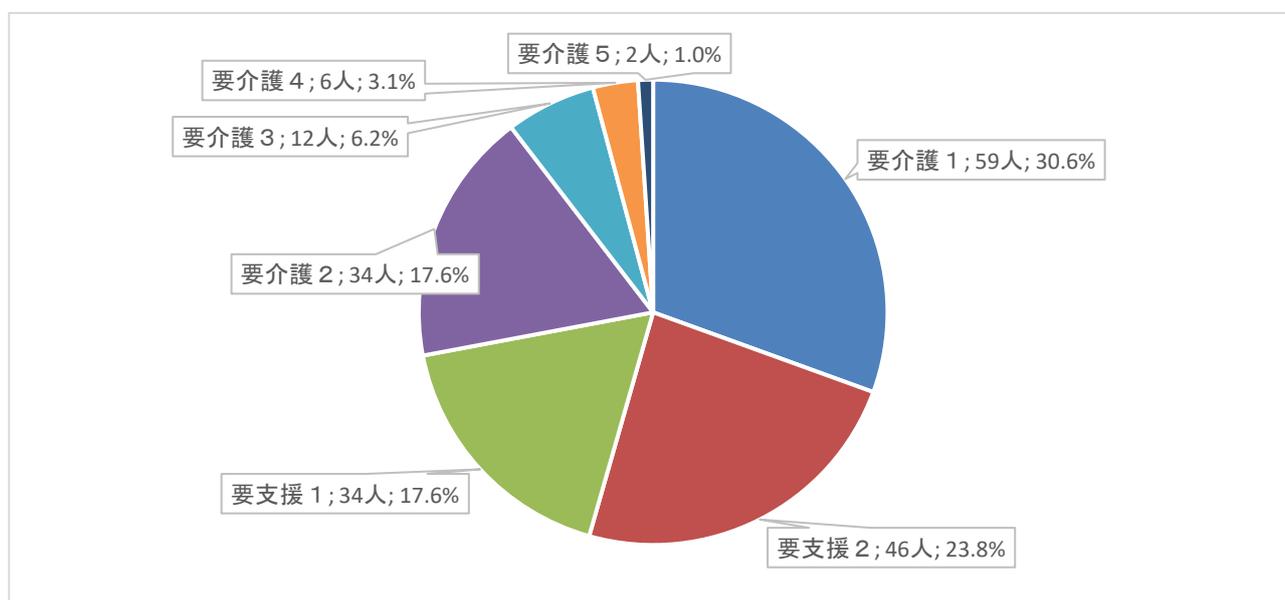


【性別】



(3) 要介護区分

要介護1が59人で最も多く、次いで要支援2が46人、要支援1が34人と、比較的軽度の支援層が多い。



男女・年齢層別の要介護区分一覧

(人)

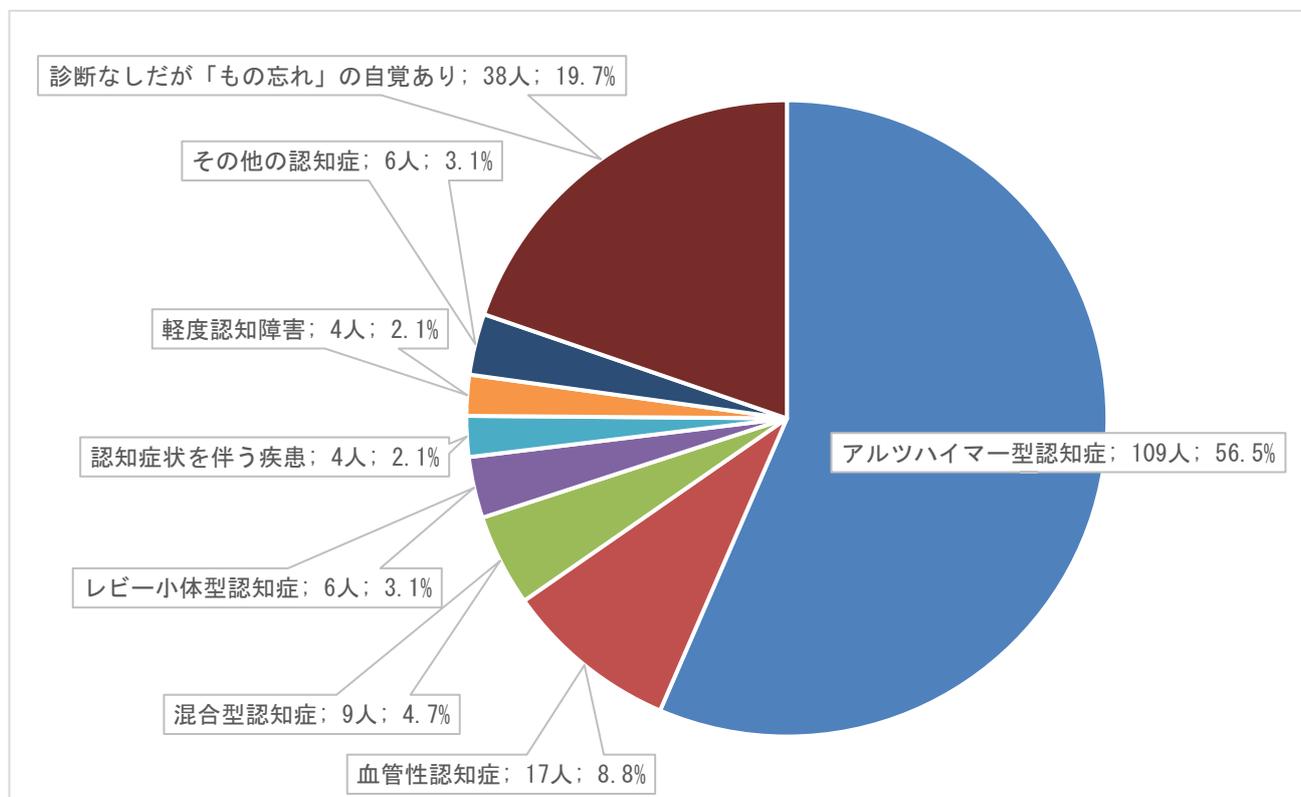
	要支援1			要支援2			要介護1			要介護2		
	女性	男性	合計									
50～64歳	0	0	0	0	0	0	1	2	3	0	0	0
65～69歳	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	1
70～74歳	0	1	1	0	0	0	2	0	2	0	0	0
75～79歳	4	5	9	4	2	6	6	1	7	0	2	2
80～84歳	5	3	8	4	1	5	7	7	14	5	3	8
85～89歳	6	4	10	15	3	18	15	4	19	5	4	9
90歳以上	3	3	6	13	4	17	12	2	14	11	3	14
合計	18	16	34	36	10	46	43	16	59	22	12	34

	要介護3			要介護4			要介護5			総計		
	女性	男性	合計	女性	男性	合計	女性	男性	合計	女性	男性	合計
50～64歳	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	2	3
65～69歳	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	1
70～74歳	0	1	1	0	0	0	0	0	0	2	2	4
75～79歳	0	1	1	0	0	0	0	0	0	14	11	25
80～84歳	1	1	2	0	1	1	0	0	0	22	16	38
85～89歳	4	2	6	1	2	3	0	1	1	46	20	66
90歳以上	2	0	2	2	0	2	1	0	1	44	12	56
合計	7	5	12	3	3	6	1	1	2	130	63	193

(4) 認知症の種類

認知症と診断を受けている人は155人。うちアルツハイマー型109人が最多で、血管性17人、混合型9人などが続く。診断なしだが『もの忘れ自覚』は38人となっている。

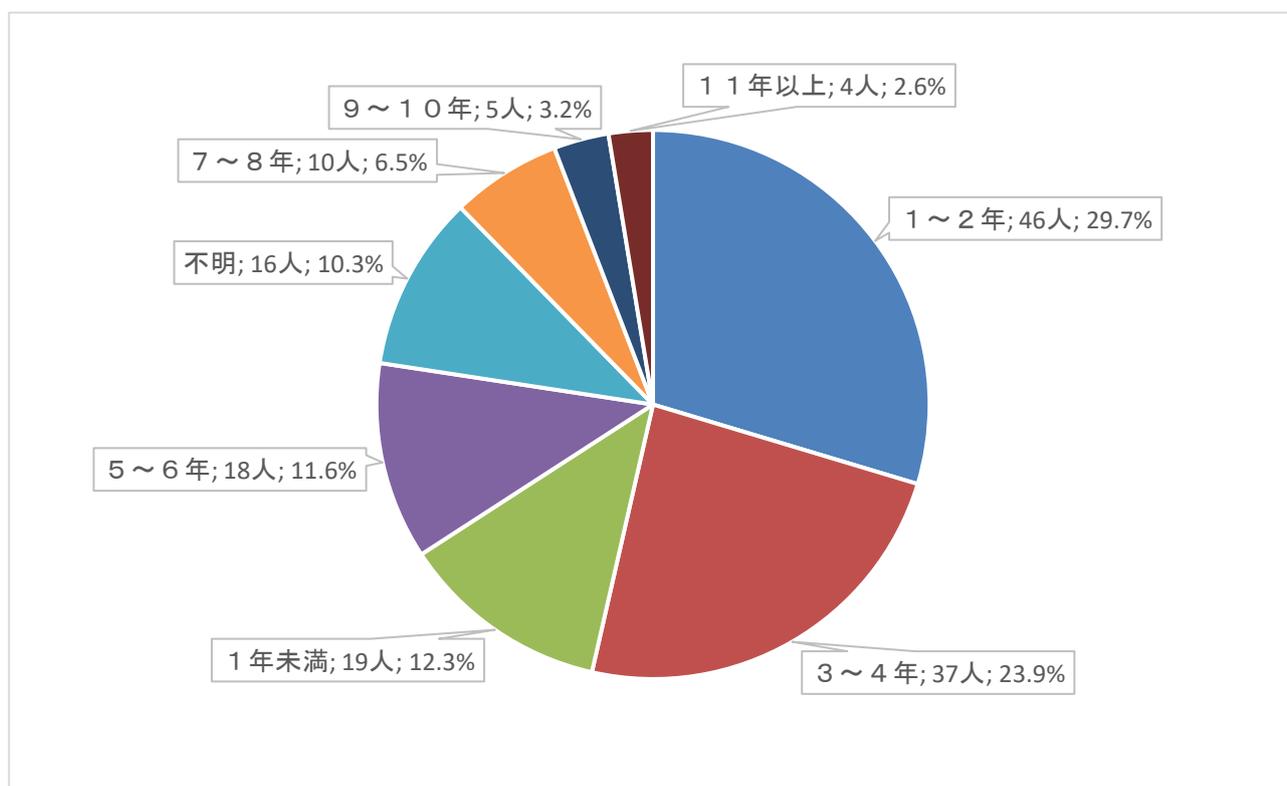
認知症の種類	人数
アルツハイマー型認知症	109人
血管性認知症	17人
混合型認知症	9人
レビー小体型認知症	6人
認知症状を伴う疾患	4人
軽度認知障害	4人
その他の認知症	6人
診断なしだが「もの忘れ」の自覚あり	38人
計	193人



(5) 診断を受けてからの経過年数（診断あり分）

認知症と診断を受けている人155人の内訳は、診断後1～2年が46人で最も多く、3～4年が37人、1年未満は19人となっている。

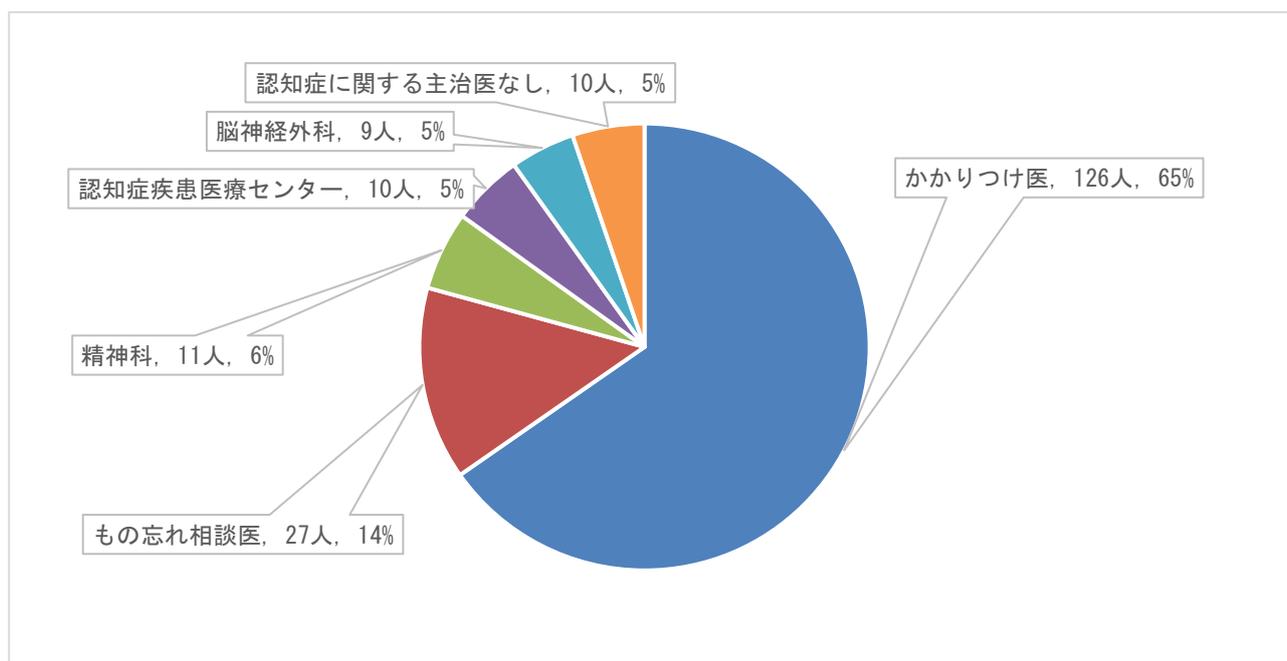
経過年数	人数
1～2年	46人
3～4年	37人
1年未満	19人
5～6年	18人
不明	16人
7～8年	10人
9～10年	5人
11年以上	4人
計	155人



(6) 認知症に関する主治医

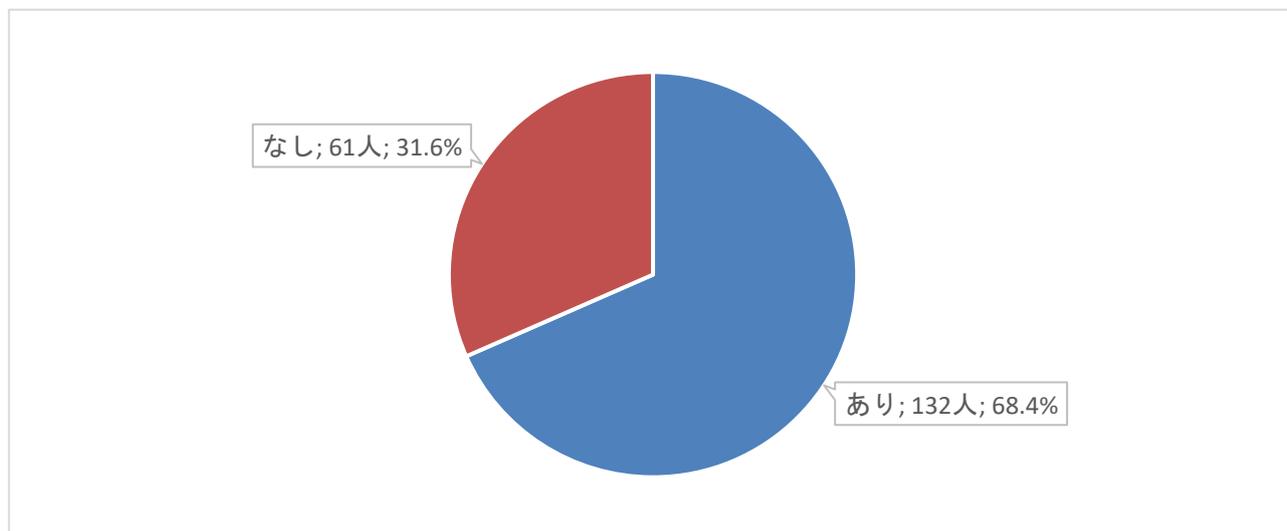
かかりつけ医が126人と最も多く、もの忘れ相談医27人、精神科11人、認知症疾患医療センター10人となっている。また、主治医なしが10人となっている。

認知症に関する主治医	人数
かかりつけ医	126人
もの忘れ相談医	27人
精神科	11人
認知症疾患医療センター	10人
脳神経外科	9人
認知症に関する主治医なし	10人
計	193人



(7) 同居家族の有無

同居132人、非同居61人で、同居の割合が高い。

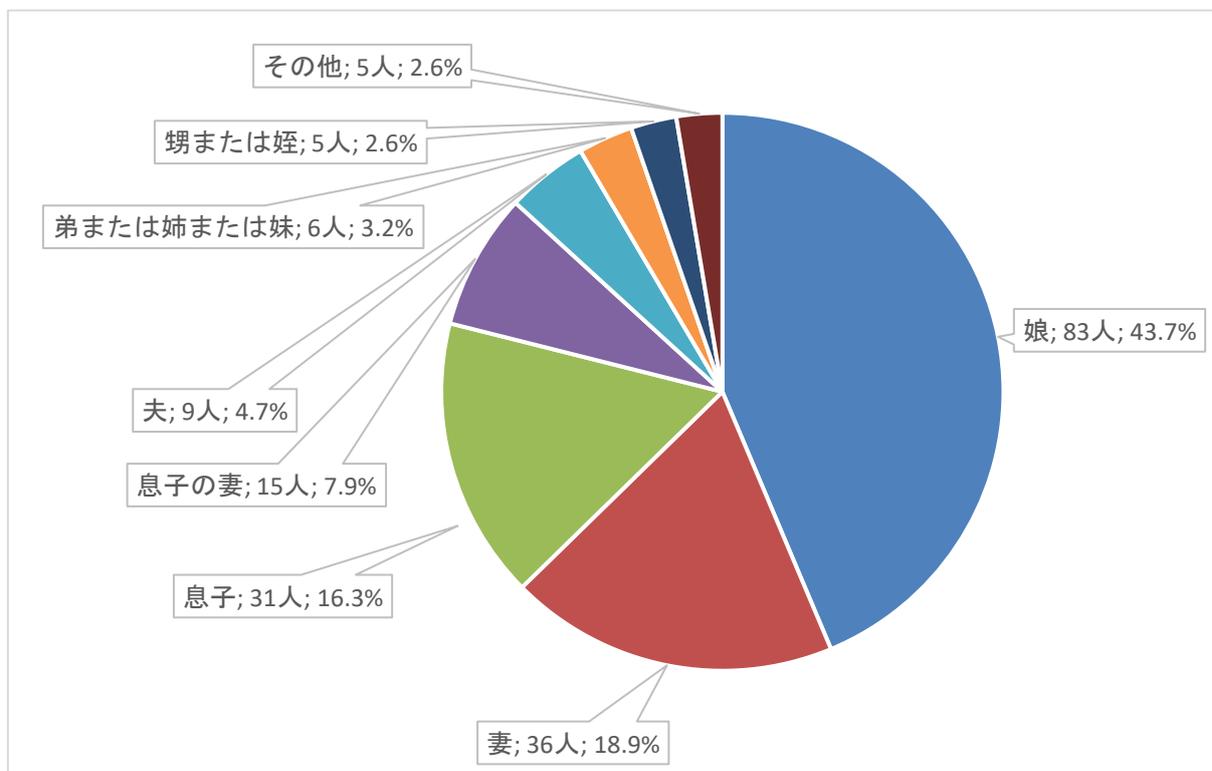


(8) 介護家族（回答者）の続柄

介護家族の回答者は190人で、内訳は娘83人が最多で、妻36人、息子31人が続く。息子の妻15人、夫9人、その他は少数。

介護家族（回答者）の続柄	人数
娘	83人
妻	36人
息子	31人
息子の妻	15人
夫	9人
弟または姉または妹	6人
甥または姪	5人
その他	5人
計	190人

その他には、娘の夫、甥の妻、母と妹(2人1組)など

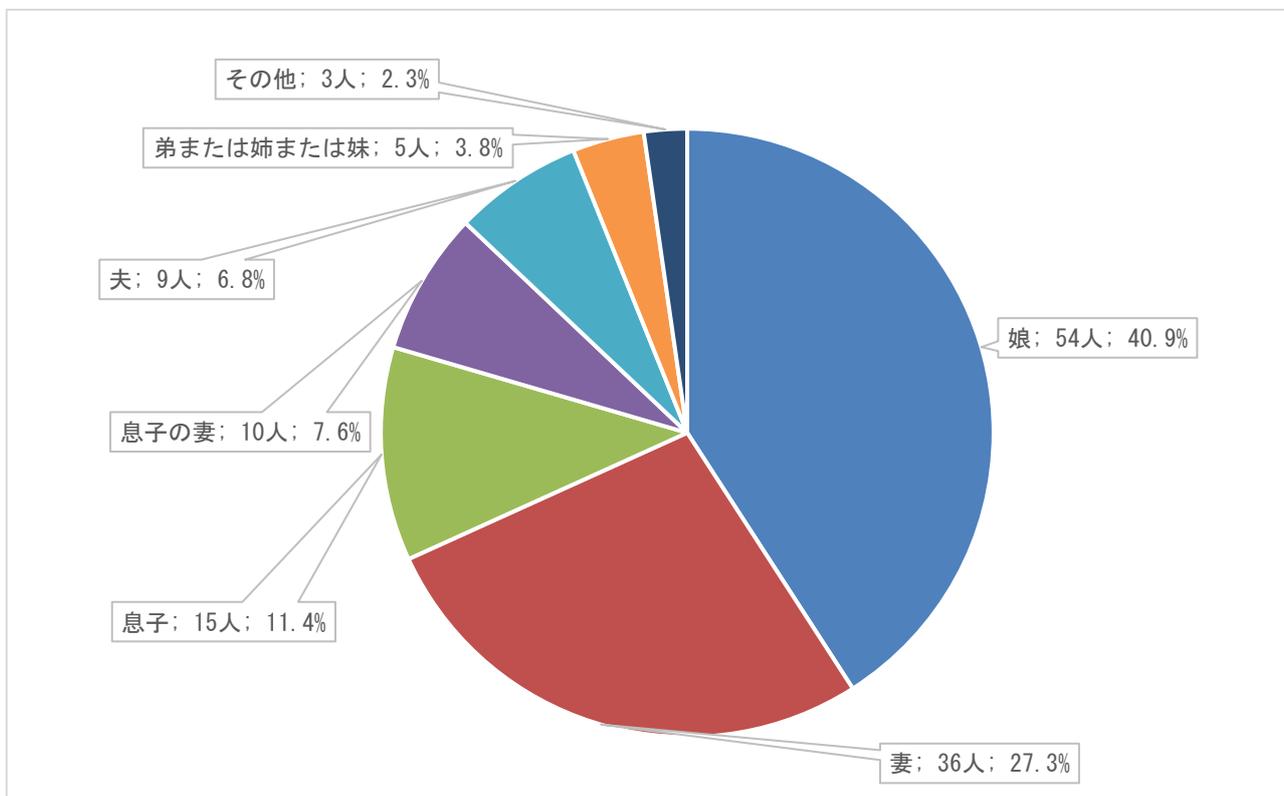


(8)-2 同居家族ありの回答者

同居家族ありの本人132人について回答した者の内訳は、娘が54人、妻が36人、息子15人が続く。

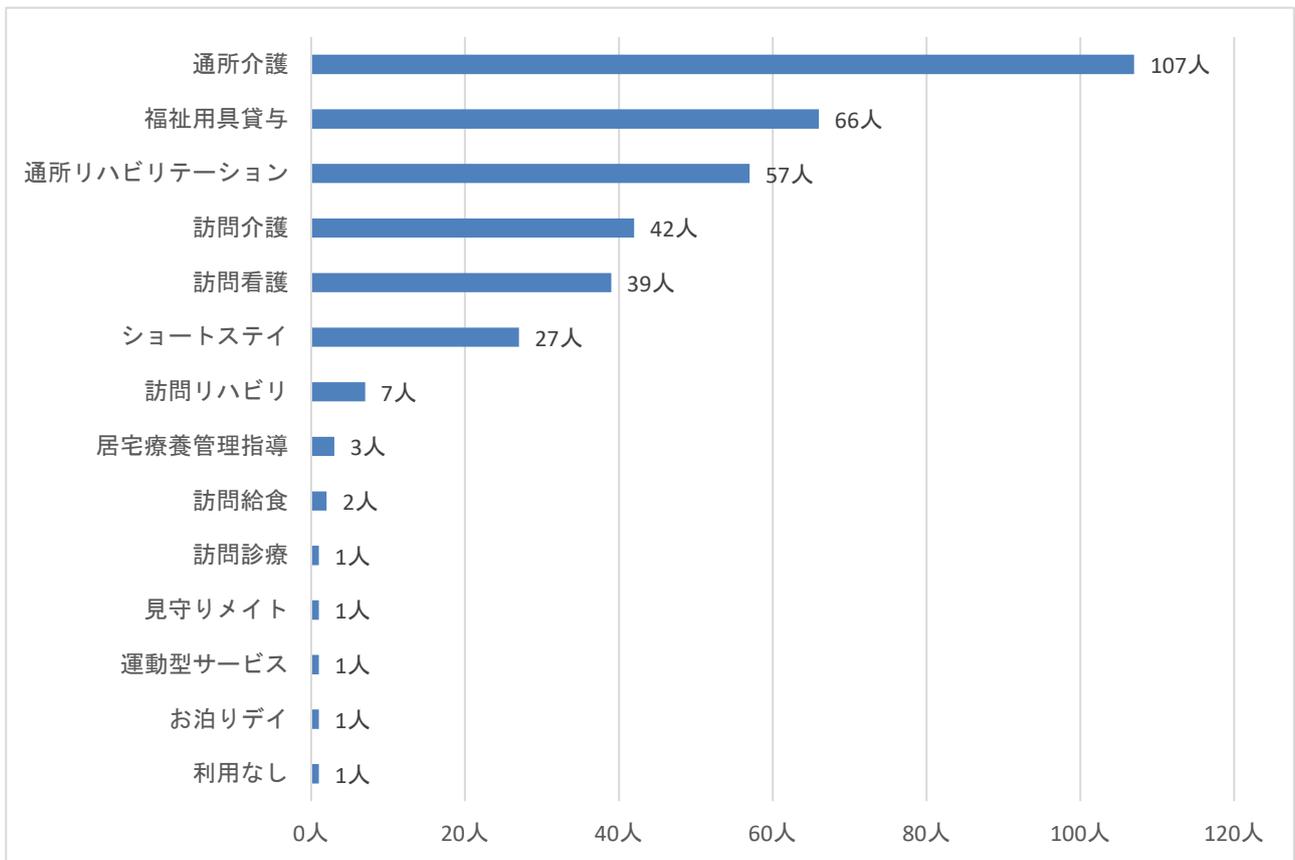
同居家族ありの回答者の続柄	人数
娘	54人
妻	36人
息子	15人
息子の妻	10人
夫	9人
弟または姉または妹	5人
その他	3人
計	132人

その他には、娘の夫、母と妹(2人1組)など



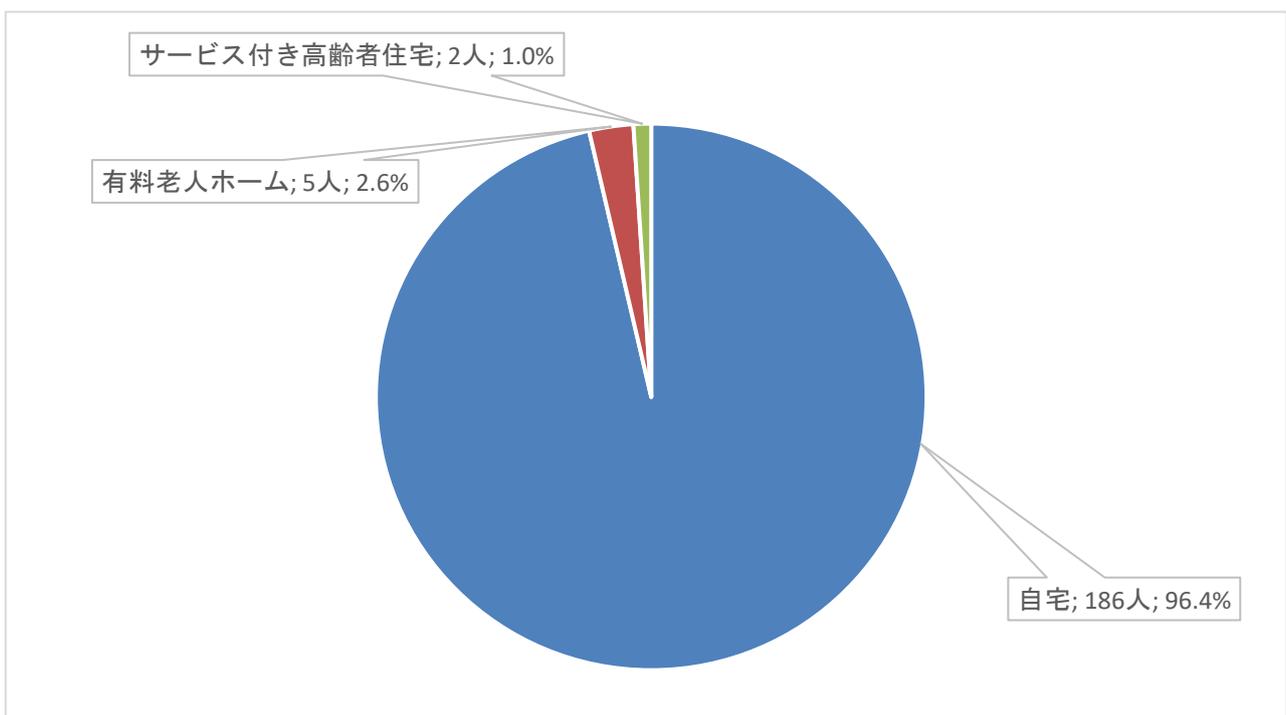
(9) 利用介護サービス（複数選択可）

通所介護107人が最多で、福祉用具貸与66人、通所リハ57人、訪問介護42人が続く。利用なしは1人となっている。



(10) 住宅の種類

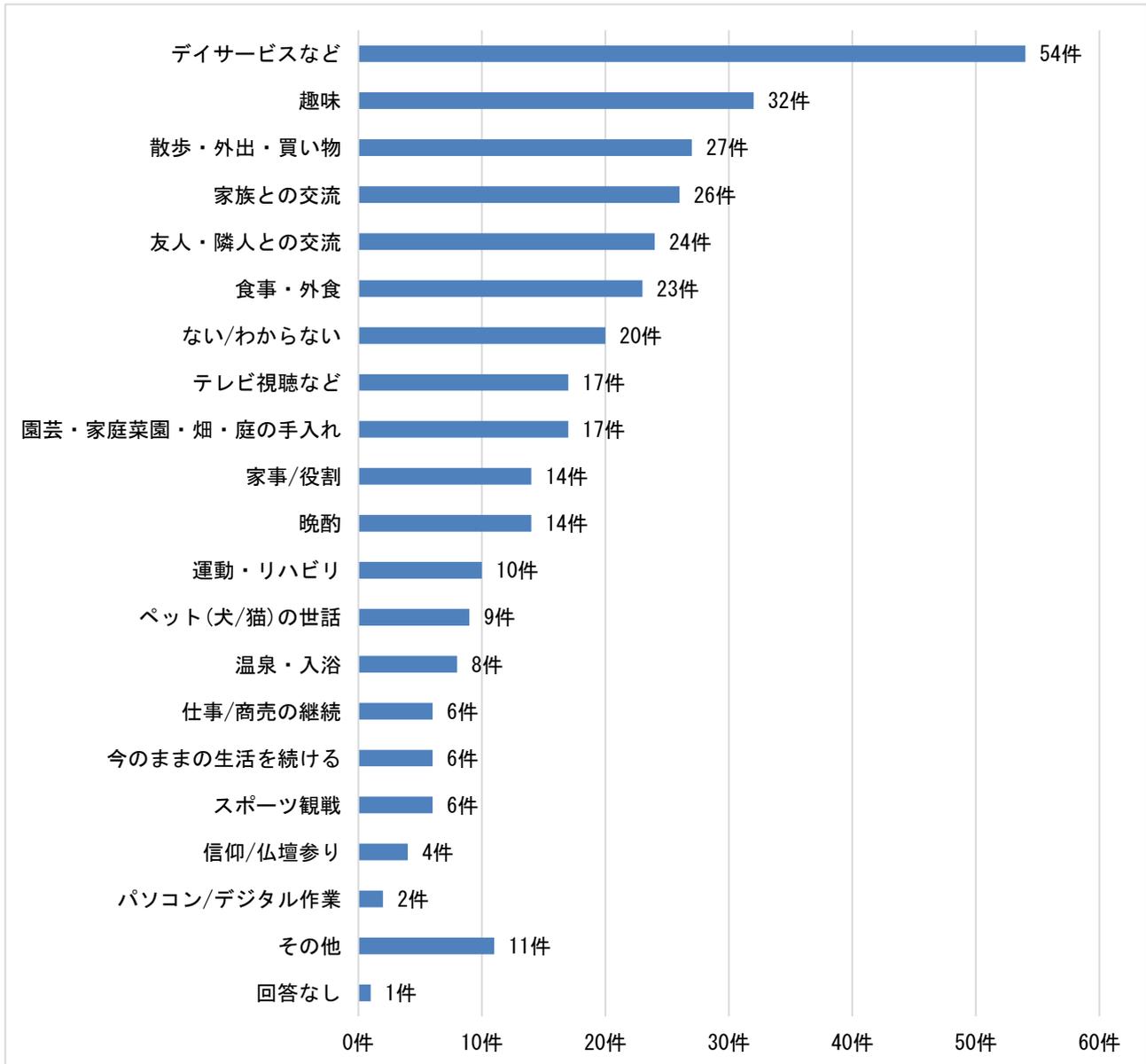
自宅が186人、有料老人ホームが5人、サービス付き高齢者住宅が2人となっている。



本人への質問①

今の生活の中で楽しみややりがいを感じていることはありますか？

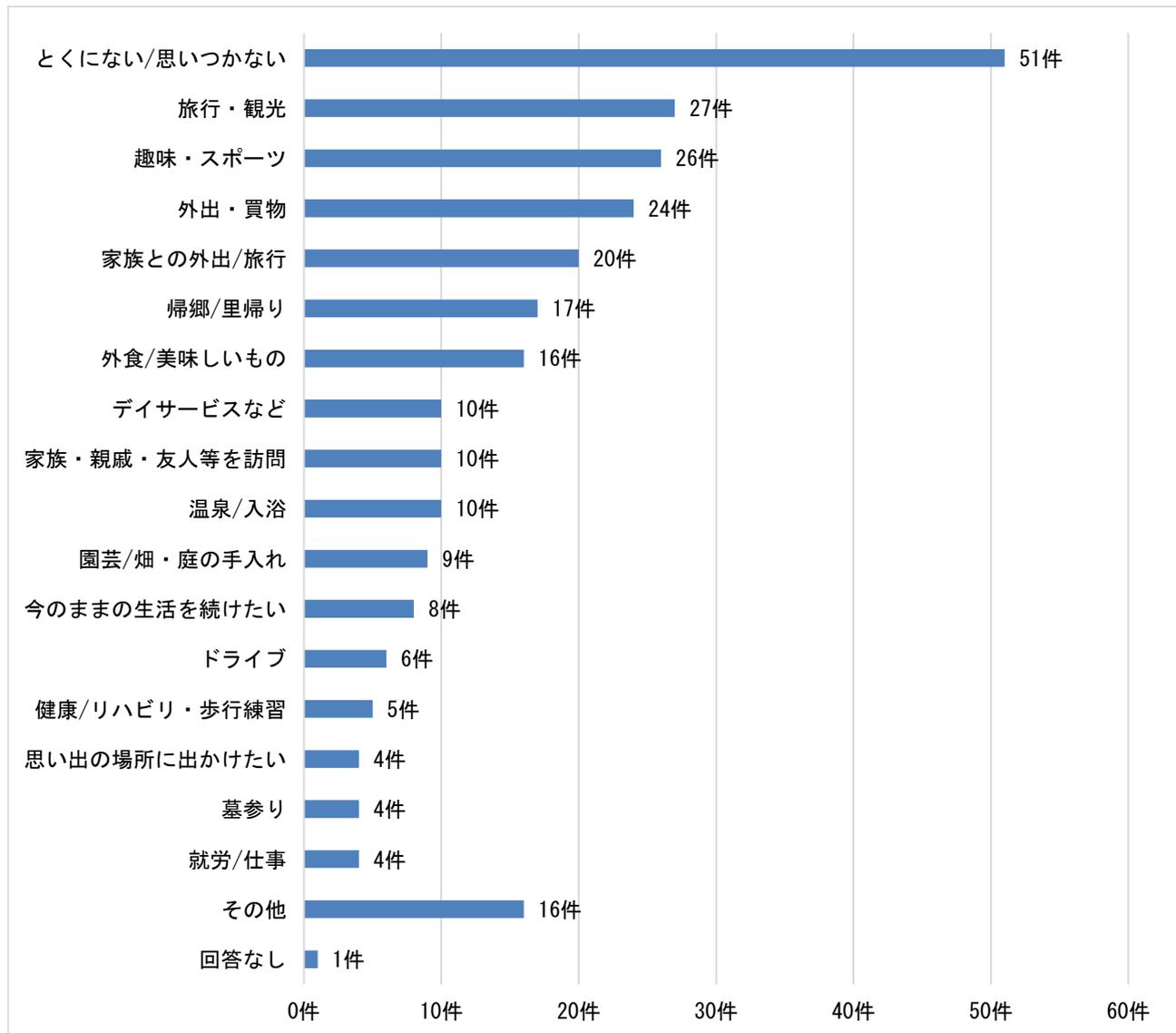
最も多いのは「デイサービスなど（54件）」で、次いで「趣味（32件）」「散歩・外出・買い物（27件）」が続きます。「家族との交流（26件）」、「友人・隣人との交流（24件）」など人との交流が楽しみとなっている様子が見られます。また、「食事・外食（23件）」の食べる楽しみや「テレビ視聴など（17件）」、「家事/役割（14件）」「園芸・家庭菜園・畑・庭の手入れ（14件）」など身近な行為に楽しみを見いだしている傾向も見られます。



本人への質問②

これから、やりたいことや行きたい場所がありますか？

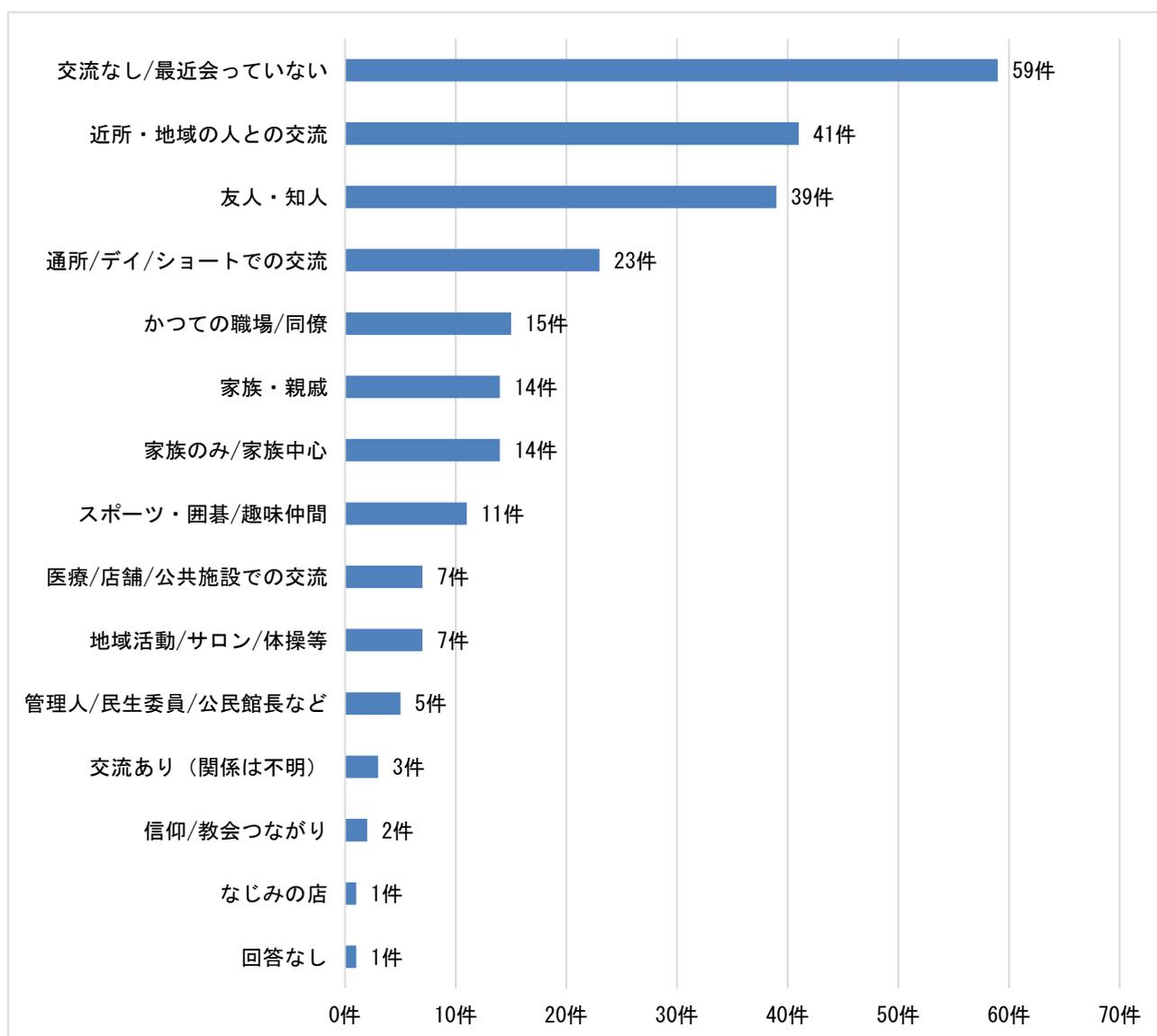
現状への満足やあきらめなど理由は様々ですが「とくにない/思いつかない（51件）」が最も多く、次いで「旅行・観光（27件）」「趣味・スポーツ（26件）」「外出・買物（24件）」など移動や体験などへの希望が見られます。また、「家族との外出/旅行（20件）」や「家族・親戚・友人等を訪問（10件）」など人とのつながりに関する項目も一定数回答があります。その他「帰郷/里帰り（17件）」や「墓参り（4件）」など故郷への思いが伝わる回答も見られます。



本人への質問③

日頃から交流のある友人・知人はいますか？

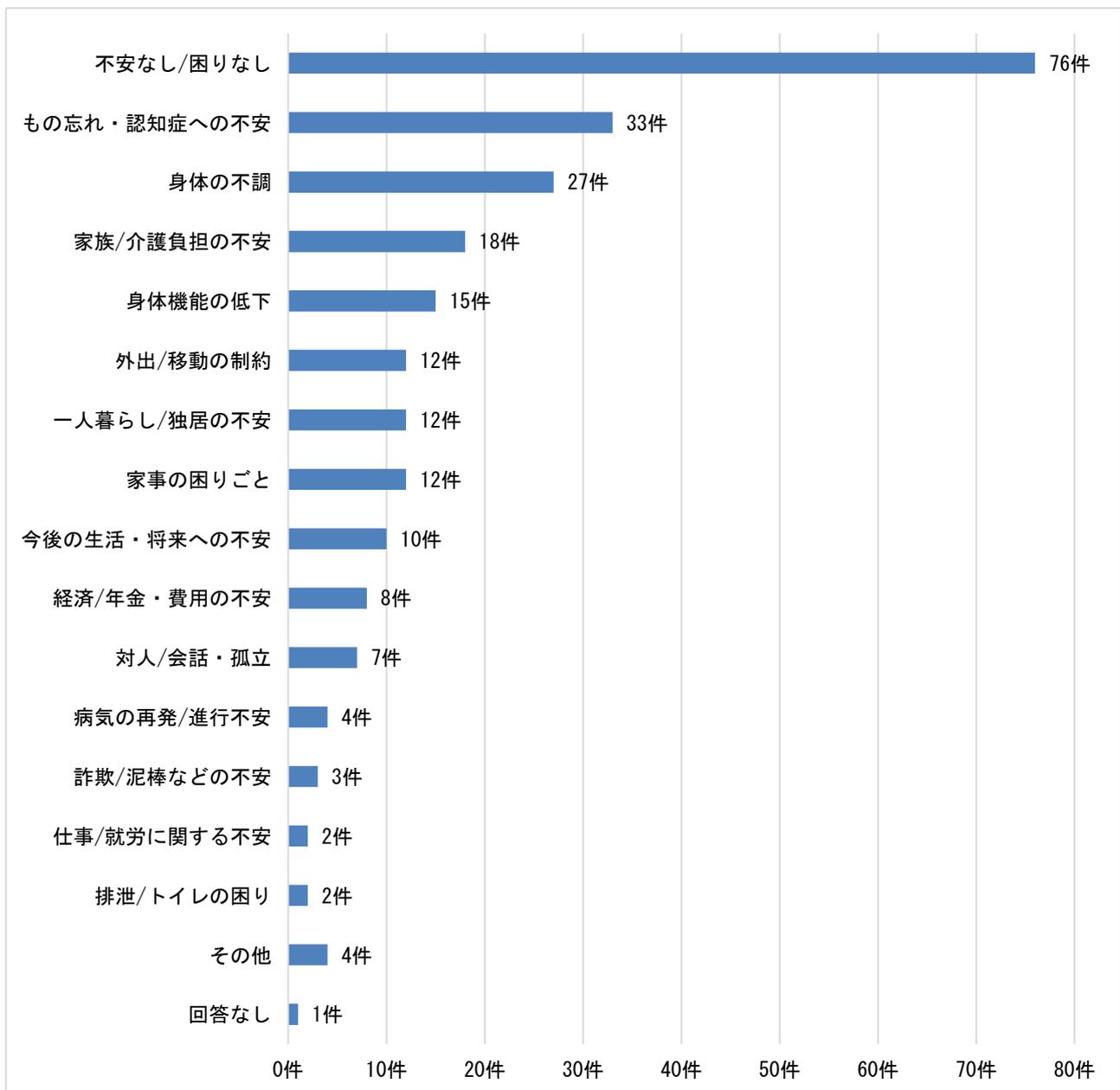
「交流なし/最近会っていない（59件）」が最も多く、自身の行動範囲が狭まったり、相手の死亡や施設入所で疎遠になるなど様々な理由が見られました。交流があるという回答では、「近所・地域の人との交流（41件）」「友人・知人（39件）」が上位で、次いで「家族のみ/家族中心（14件）」「家族・親戚（14件）」など家族を中心としたつながりとなっています。また、「通所/デイ/ショートでの交流（23件）」は関わりの機会として介護施設が一定の役割を果たしていると考えられます。その他「医療/店舗/公共施設での交流（7件）」「地域活動/サロン/体操等（7件）」が同程度にみられます。



本人への質問④

困っていることや不安なことはありますか？

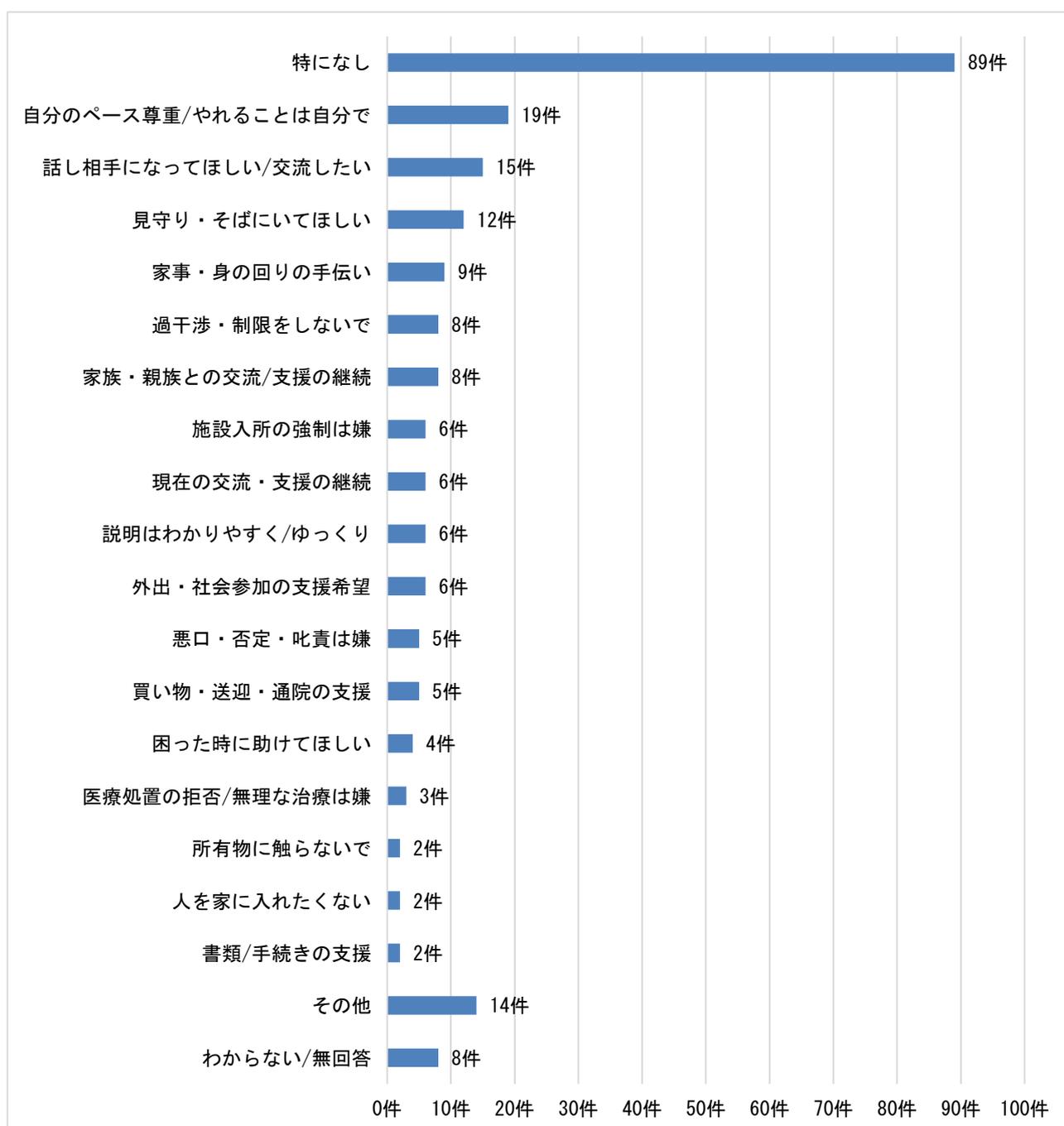
「不安なし/困りなし（76件）」が最多で、回答者の多くは現状に満足していたり、困りごとを強くは自覚していない様子です。次いで「もの忘れ・認知症への不安（33件）」「身体の不調（27件）」「家族/介護負担の不安（18件）」となっています。また、「外出/移動の制約（12件）」「家事の困りごと（12件）」「一人暮らし/独居の不安（12件）」などに日常生活の中での困りごともあります。その他、「経済/年金・費用の不安（8件）」など経済面での不安も挙がっており、全体的には、身体の状況・生活全般に関する不安が幅広く分布しています。



本人への質問⑤

周囲の人に望むこと（してほしいこと、してほしくないこと含め）はどのようなことですか？

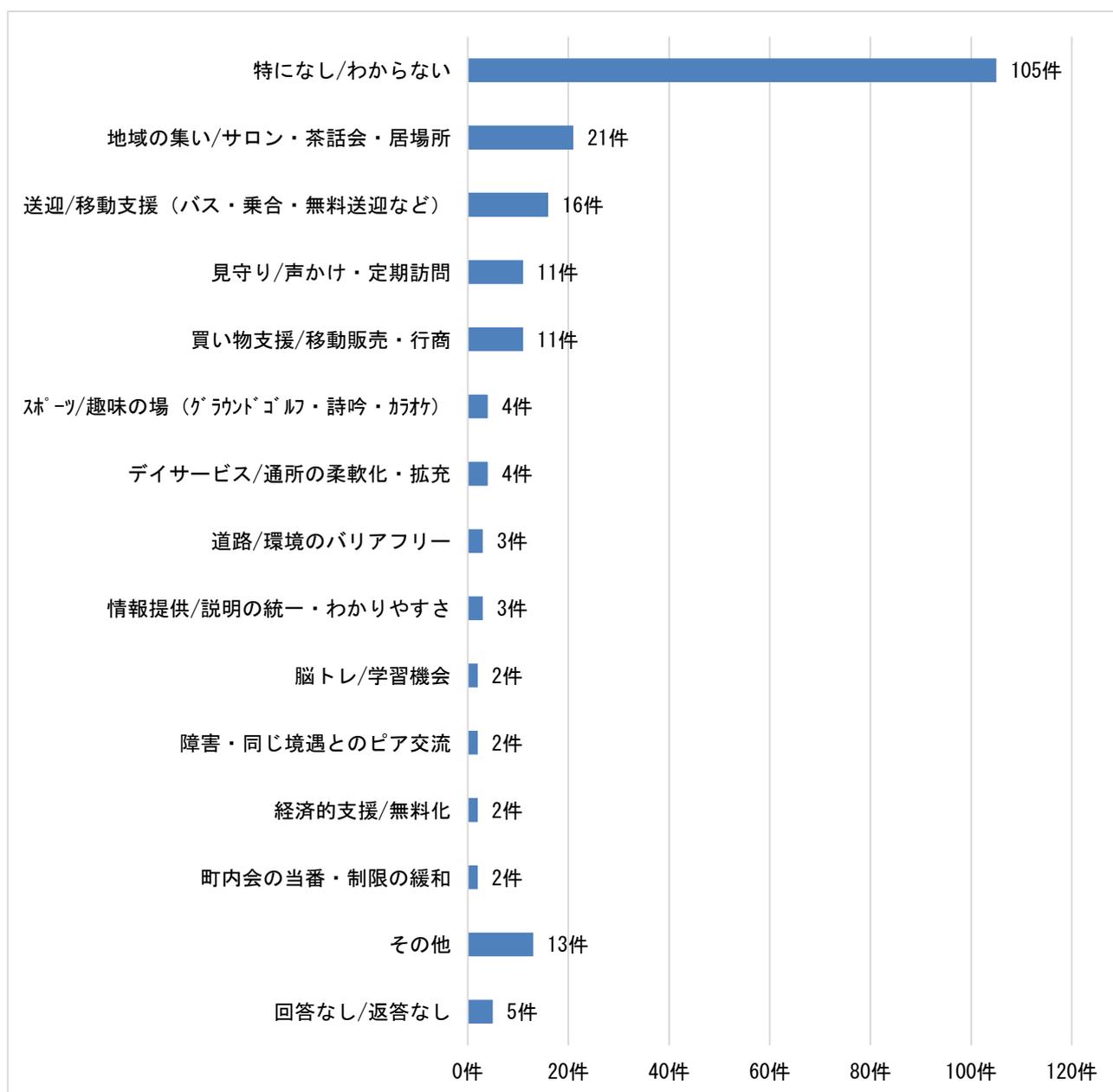
「特になし（89件）」が最多で、家族をはじめとした支援者への感謝と現状の支援への満足を表すコメントが多く見られました。『してほしいこと』としては、「自分のペース尊重/やれることは自分で（19件）」が最多で、「話し相手になってほしい/交流したい（15件）」「見守り・そばにいてほしい（12件）」「家事・身の回りの手伝い（9件）」の順で挙げられています。一方で『してほしくないこと』としては、「過干渉・制限をしないでほしい（8件）」「施設入所の強制は嫌だ（6件）」「悪口・否定・叱責は嫌だ（5件）」「医療処置の拒否/無理な治療は嫌だ（3件）」の順で挙げられており、全体として過度でない見守りと本人の意思の尊重が望まれている状況です。



本人への質問⑥

もっと暮らしやすくなるために、今後の地域での支えや支援の仕組みであつたらいいな
と思うものがありますか？

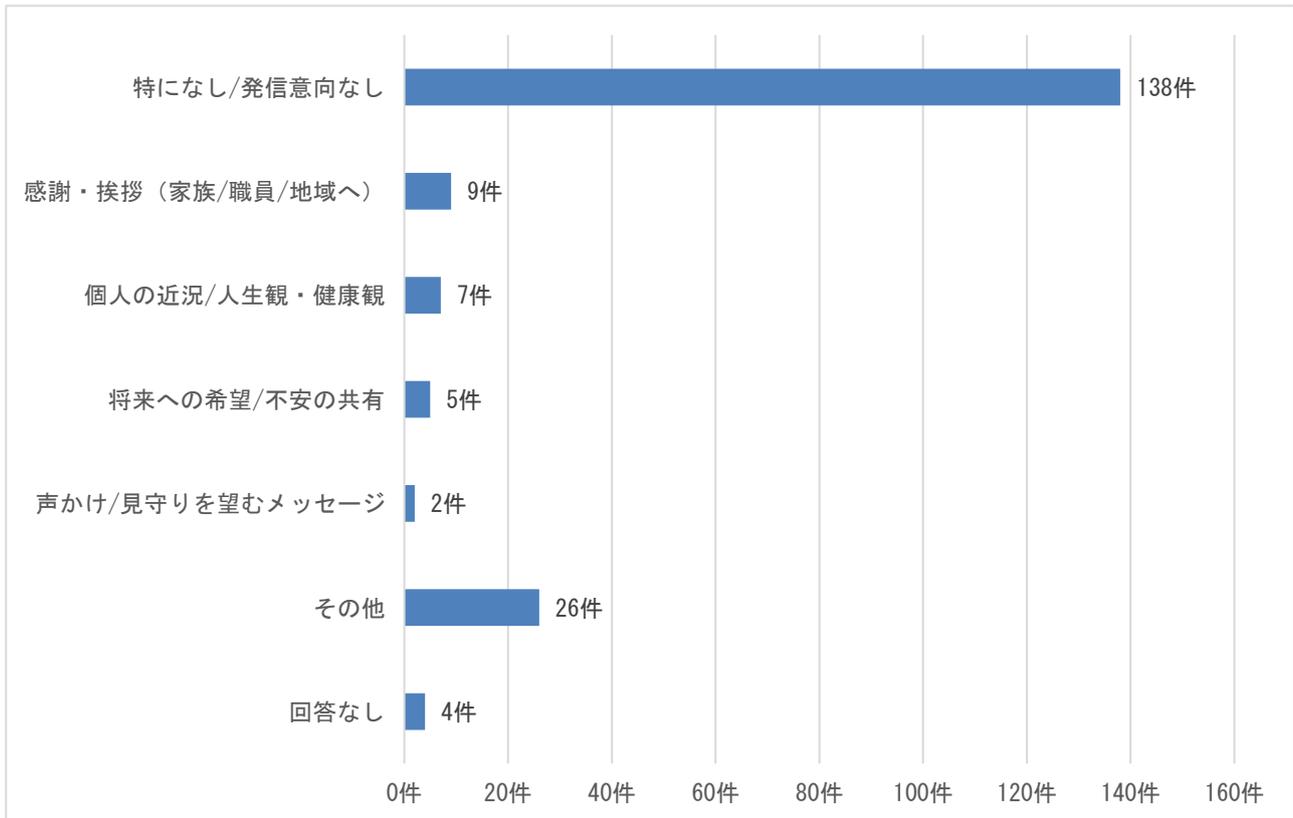
「特になし/わからない（105件）」が大きな割合を占め、現状への満足を示すコメントが一定数見られる中、具体的な仕組みの言語化が難しい様子も見られました。支えや支援の仕組みとして挙げられたのは、「地域の集い/サロン・茶話会・居場所（21件）」「送迎/移動支援（バス・乗合・無料送迎など）（16件）」「見守り/声かけ・定期訪問（11件）」「買い物支援/移動販売・行商（11件）」が多く、少数意見では、「道路/環境のバリアフリー（3件）」「情報提供/説明の統一・わかりやすさ（3件）」など幅広い内容となっています。



本人への質問⑦

皆さんに伝えたいことはありますか？

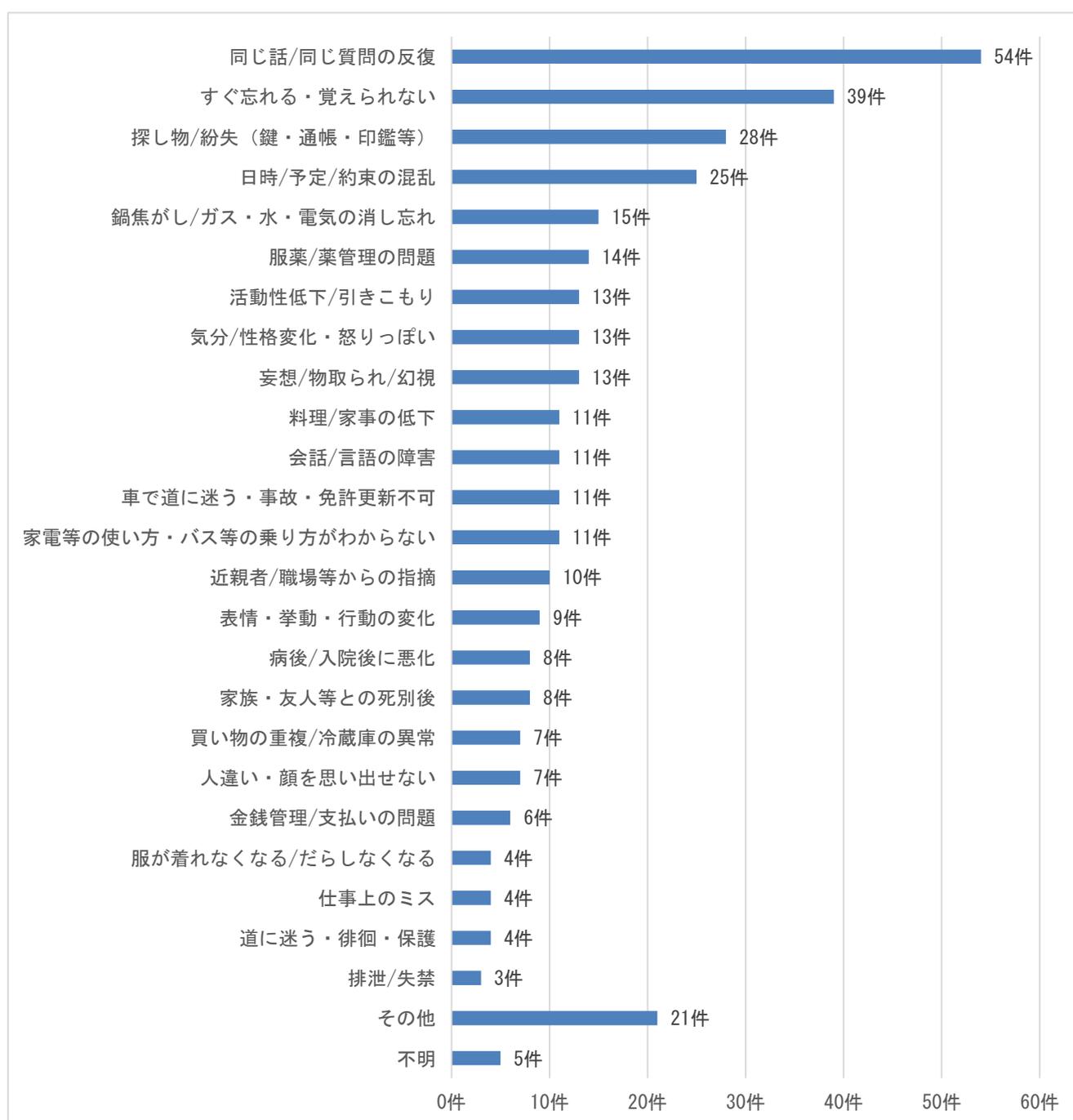
「特になし/発信意向なし（138件）」が圧倒的多数で発信することに対して消極的と思われます。「感謝・挨拶（家族/職員/地域へ）（9件）」「個人の近況/人生観・健康観（7件）」「将来への希望/不安の共有（5件）」「声かけ/見守りを望むメッセージ（2件）」と続いています。全体として、日常の中で静かに過ごしたいという意向が主流で、感謝や近況の共有といった穏やかな意見が挙がっています。



家族への質問①

もの忘れなど、いつもと違っていると気づいたのはどのような状況でしたか？

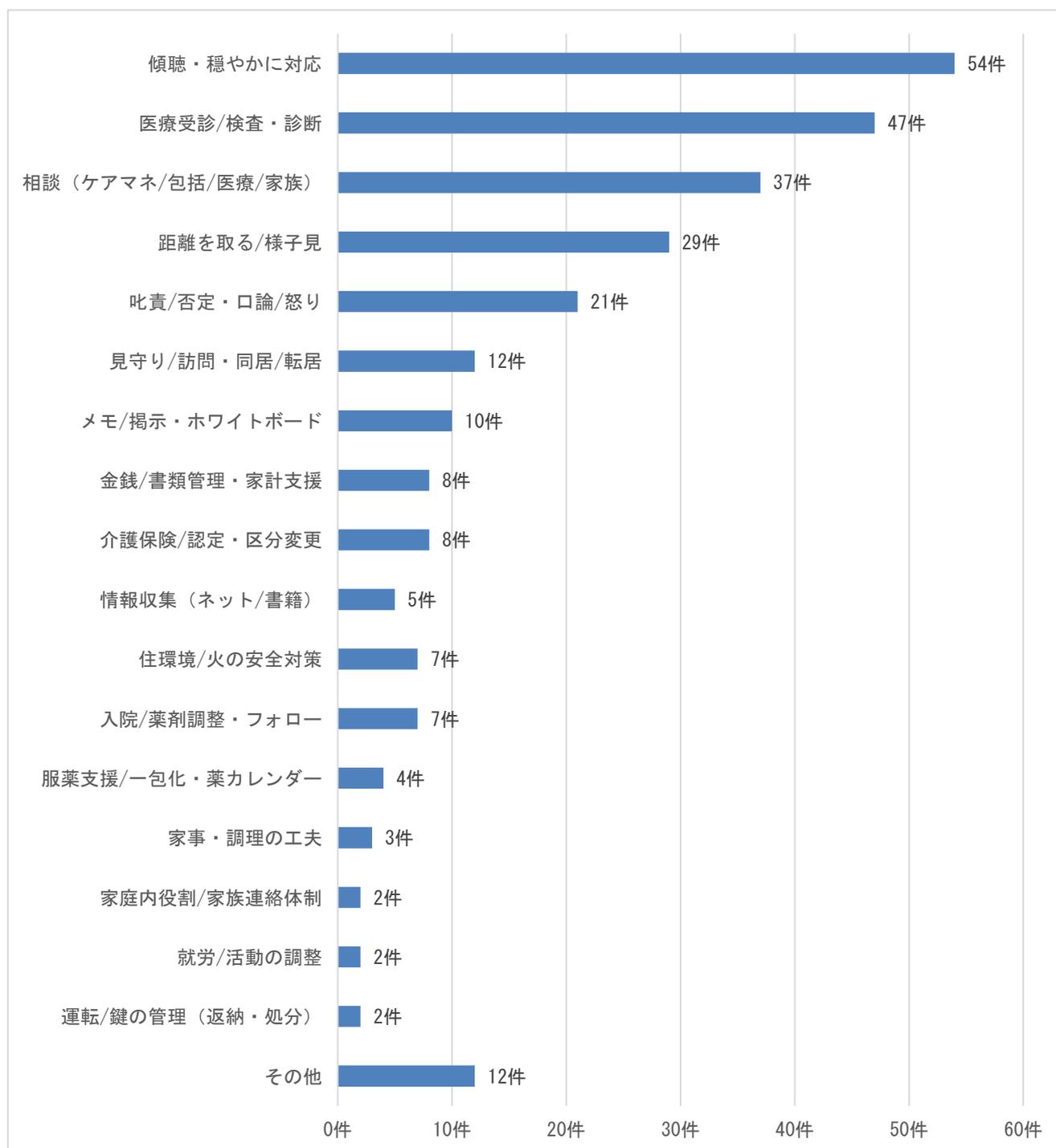
「同じ話/同じ質問の反復（54件）」と「すぐ忘れる・覚えられない（39件）」が上位を占め、「日時/予定/約束の混乱（28件）」なども合わせると記憶関連の兆候が多くなっており、「鍋焦がし/ガス・電気の消し忘れ（25件）」「探し物/紛失（鍵・通帳・印鑑等）（13件）」など日常生活の中での兆候も目立ちます。また、「活動性低下/引きこもり（13件）」「気分/性格変化・怒りっぽい（13件）」は行動・情緒面の変化として表れています。その他、「病後/入院後に悪化（8件）」「家電等の使い方・バス等の乗り方がわからない（11件）」「車で道に迷う・事故・免許更新不可（11件）」なども一定数あり、兆候は多面的に現れています。



家族への質問②

そのときどんな行動をとりましたか？

「傾聴・穏やかに対応（54件）」が最も多く、次いで「医療受診/検査・診断（47件）」「相談（ケアマネ/包括/医療/家族）（37件）」が続いています。一方で「叱責/否定・口論/怒り（21件）」などの対応も一定数見られます。家族内での調整や見守りとして「距離を取る/様子見（29件）」「見守り/訪問・同居/転居（12件）」などの対応が取られており、生活面では「メモ/掲示・ホワイトボード（10件）」「金銭/書類管理・家計支援（8件）」「住環境/火の安全対策（7件）」など具体的に工夫したことが挙がっています。



家族への質問③

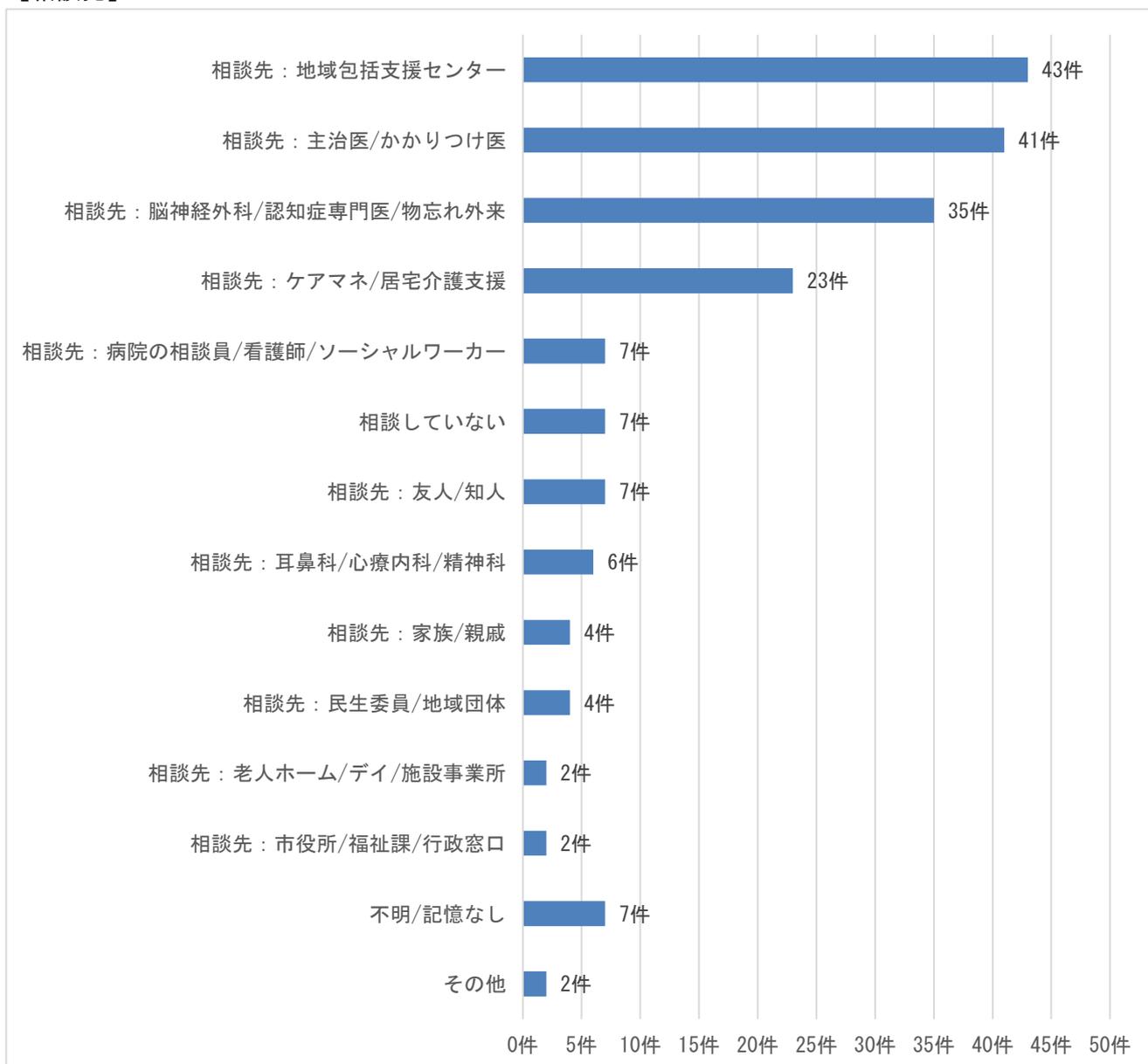
最初の相談先はどちらで、どうやって知りましたか？

「地域包括支援センター（43件）」と「主治医/かかりつけ医（41件）」が主要な相談先で、「脳神経外科/認知症専門医/物忘れ外来（35件）」「ケアマネ/居宅介護支援（23件）」がこれに続きます。

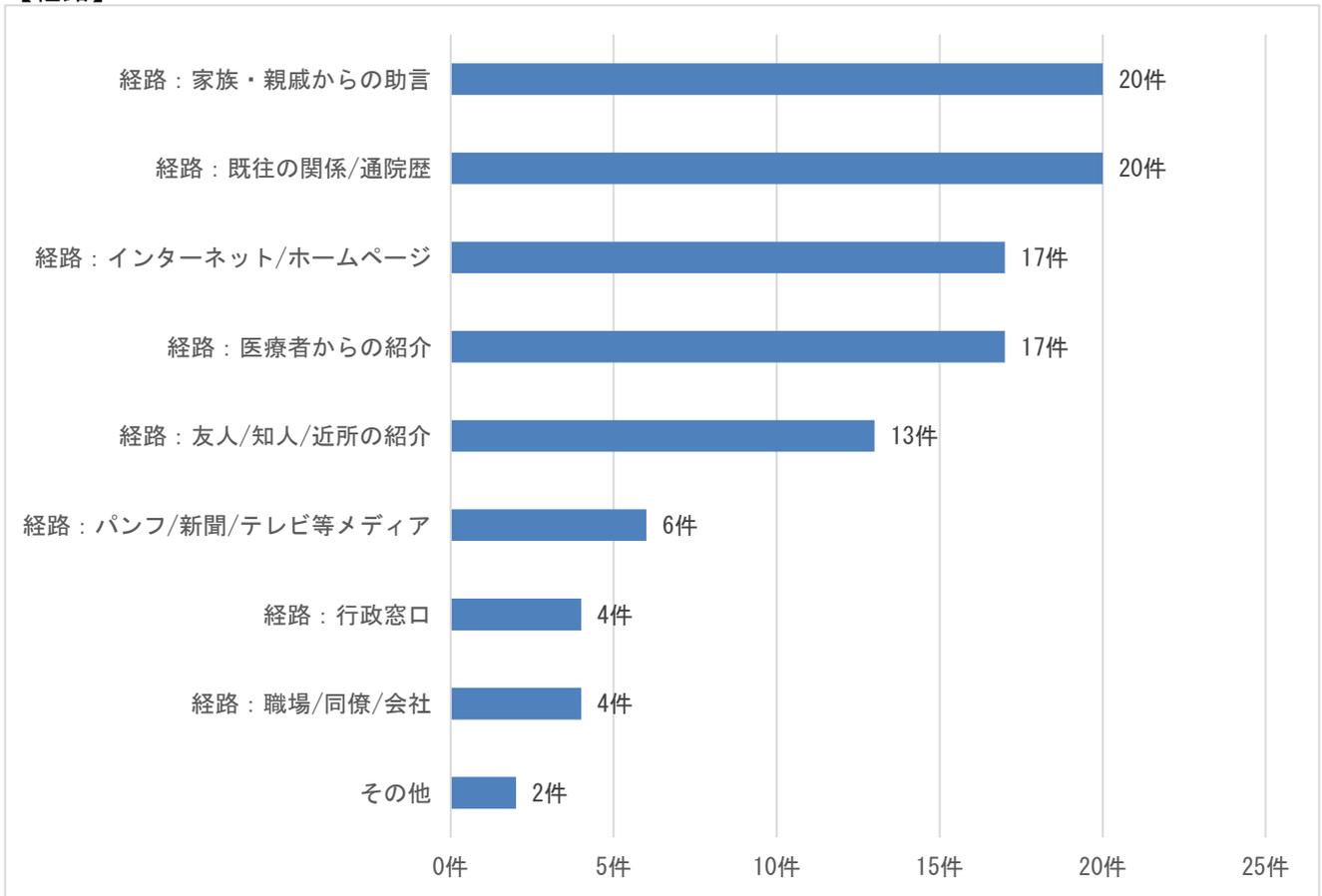
「病院の相談員/看護師/ソーシャルワーカー（7件）」「民生委員/地域団体（4件）」など地域・医療の窓口も選ばれている一方で、「相談していない（7件）」も一定数見られます。

相談先情報の入手経路としては、「家族・親戚からの助言（20件）」「既往の関係/通院歴（20件）」「インターネット/ホームページ（17件）」「医療者からの紹介（17件）」が上位で、身近な人脈と医療やWeb情報が並行して活用されている状況がうかがえます。

【相談先】



【経路】



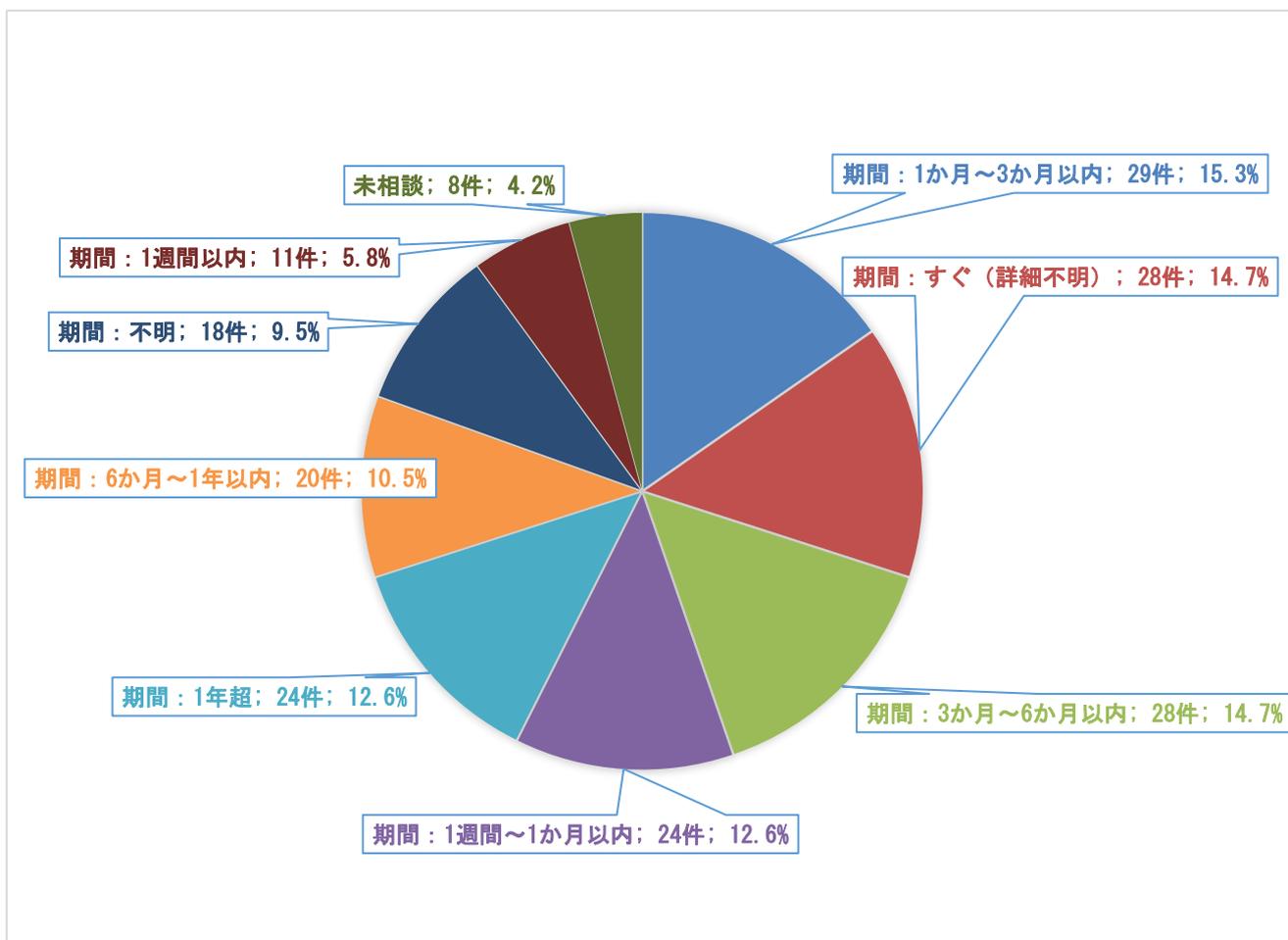
家族への質問④

最初の相談をするまでにどれくらい期間がかかりましたか？

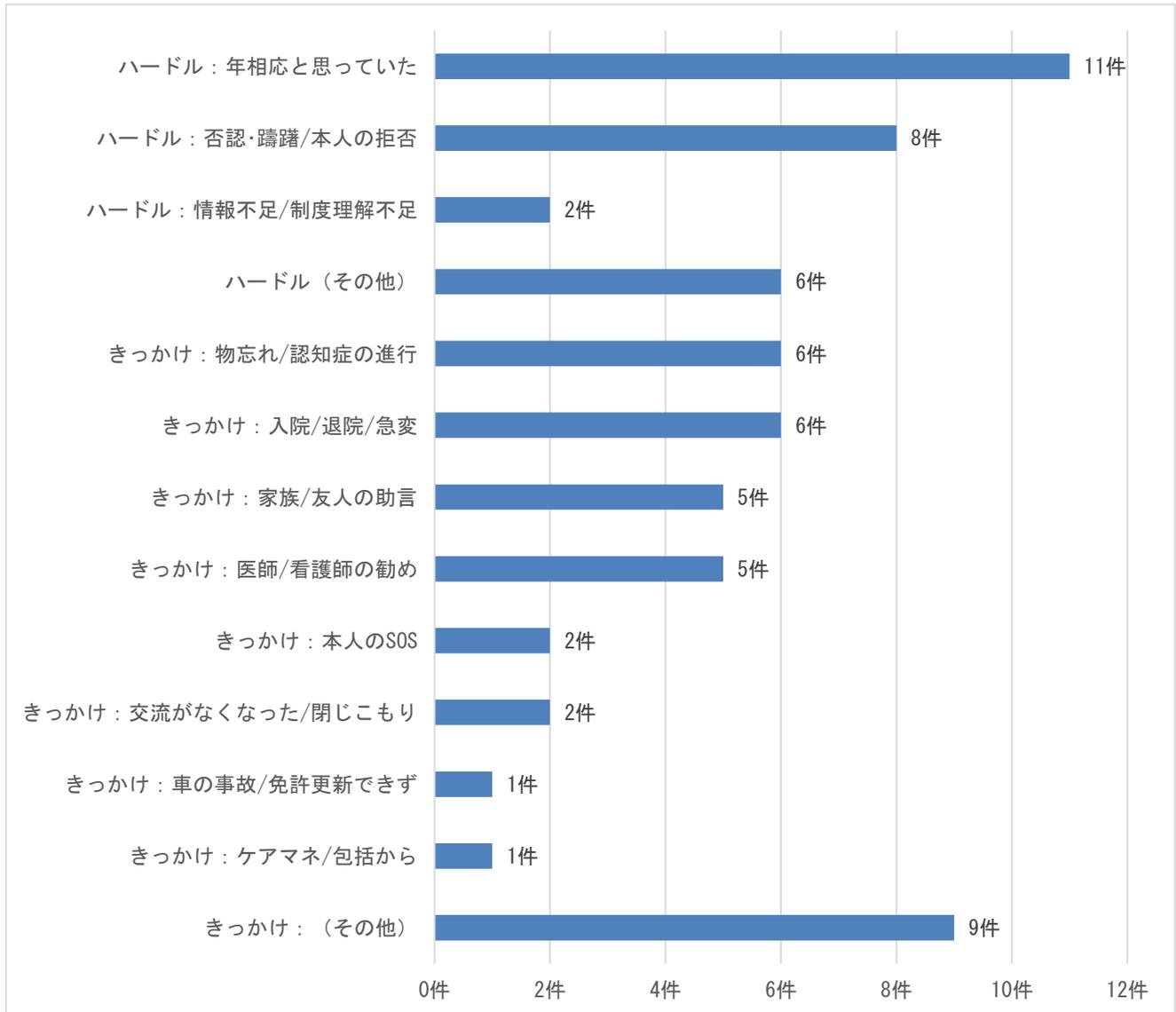
「すぐ（詳細不明）（28件）」「1週間以内（11件）」「1週間～1か月以内（24件）」までの1か月以内で63件：33.2%、「期間：1か月～3か月以内（29件）」までの3か月以内で92件：48.4%が相談にいたる一方で、「1年超（24件）」「未相談（8件）」も一定数確認されます。

相談まで3か月を超えたケースでの「ハードル」として「年相応と思っていた（11件）」が最も多く、「否認・躊躇/本人の拒否（8件）」「情報不足/制度理解不足（2件）」が続きます。一方、動き出しの「きっかけ」では「物忘れ/認知症の進行（6件）」「入院/退院/急変（6件）」「家族/友人の助言（5件）」「医師/看護師の勧め（5件）」が挙げられ、出来事や周囲の後押しが契機となる様子です。

【期間】



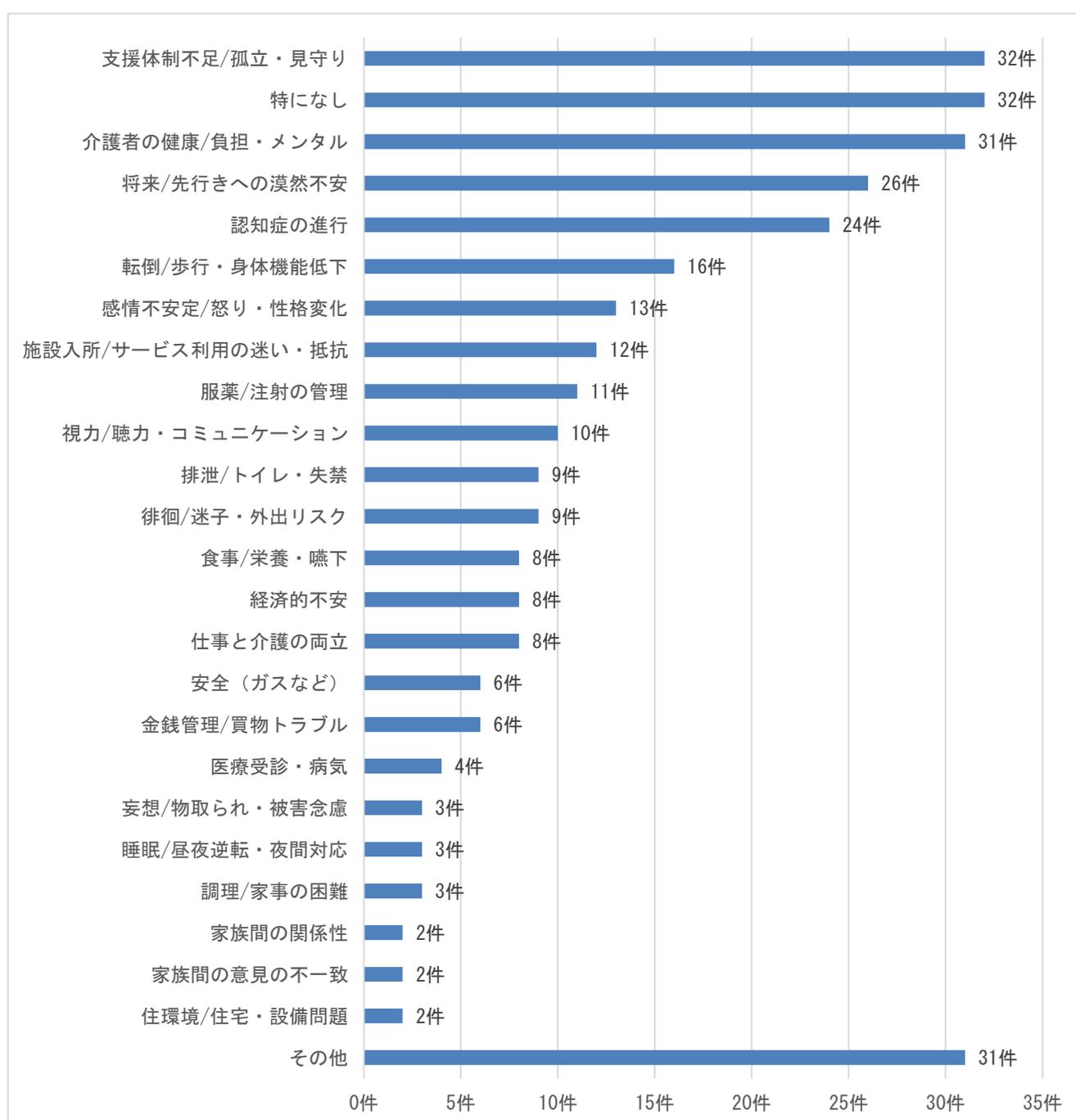
【3か月を超えたケースについて】



家族への質問⑤

困っていることや不安なことはありますか？

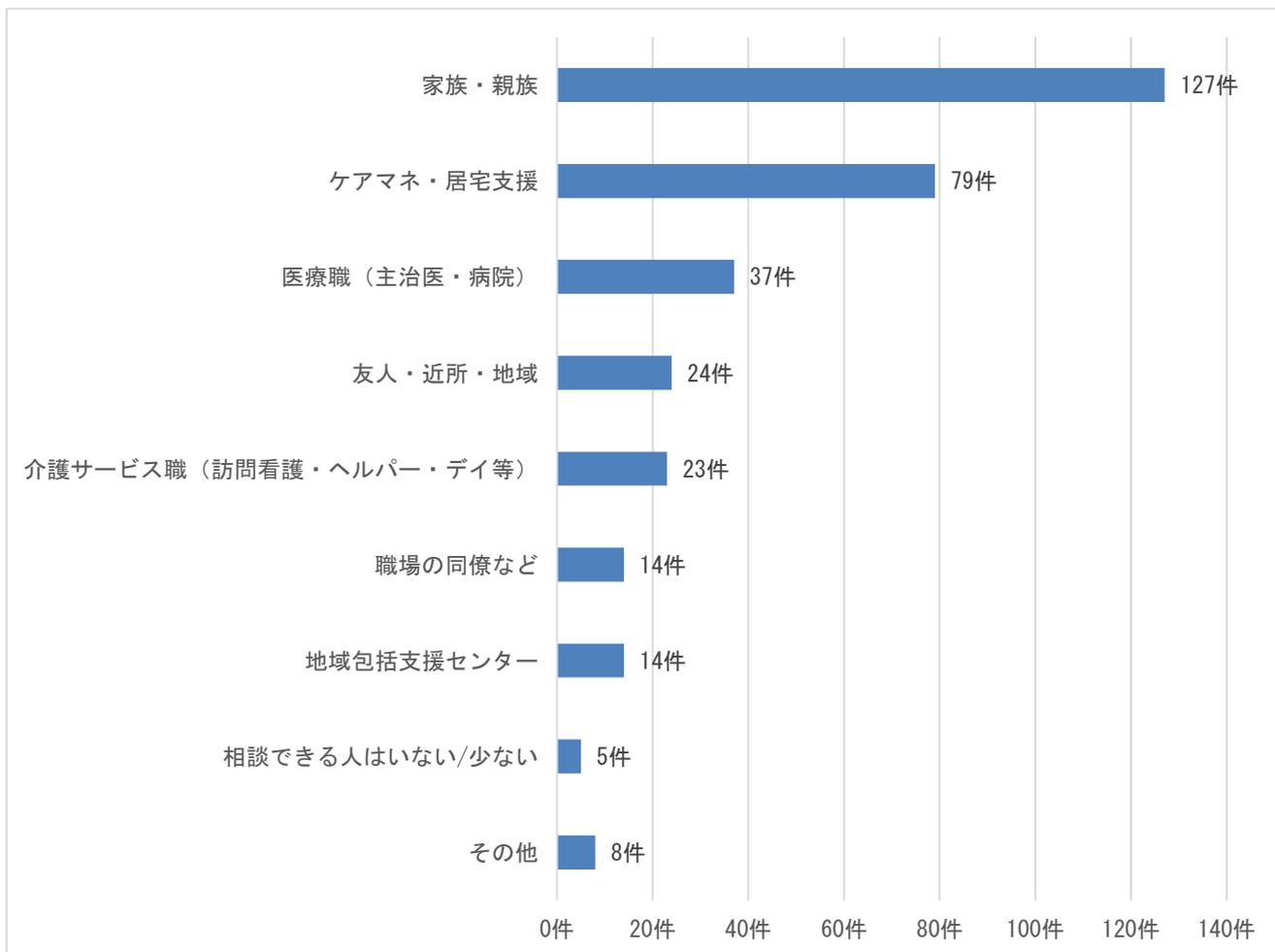
「支援体制不足/孤立・見守り（32件）」では本人の支援体制に対する困りごと・不安が表われている一方で、「特になし（32件）」では既に対策がとられたことでの困りごとの解消が読み取れるコメントが見られます。「介護者の健康/負担・メンタル（31件）」「将来/先行きへの漠然不安（26件）」「認知症の進行（24件）」がそれに続き、介護が継続することへの懸念が示されています。「転倒/歩行・身体機能低下（16件）」「感情不安定/怒り・性格変化（13件）」「施設入所/サービス利用の迷い・抵抗（12件）」など具体的事象や「安全（ガスなど）（6件）」「金銭管理/買物トラブル（6件）」は家計・安全面の要素として現れています。



家族への質問⑥

相談ができる人はいますか？

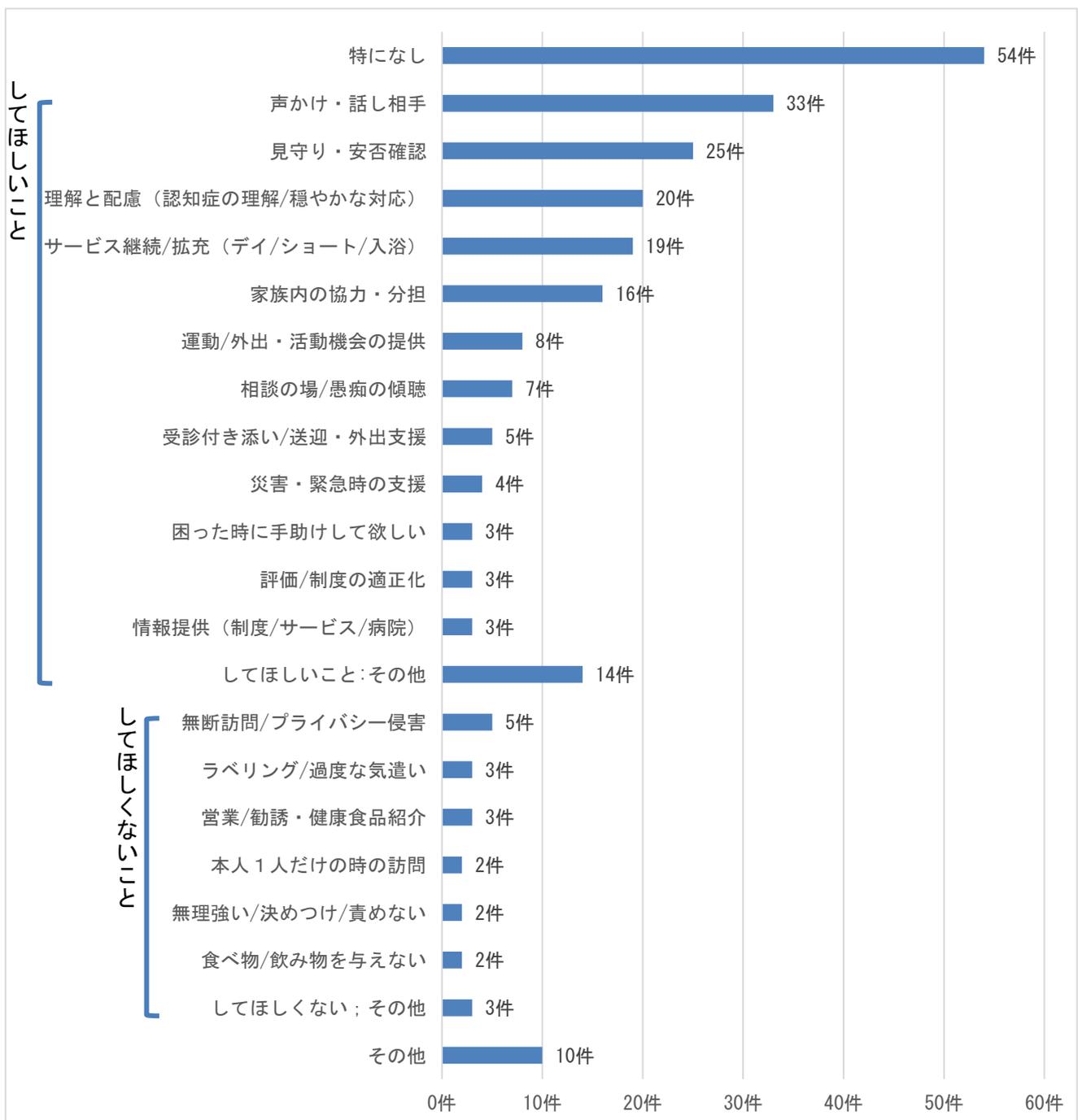
「家族・親族（127件）」が最も多く、次いで「ケアマネ・居宅支援（79件）」「医療職（主治医・病院）（37件）」が続きます。また「友人・近所・地域（24件）」などの身近なネットワークや「介護サービス職（訪問看護・ヘルパー・デイ等）（23件）」「地域包括支援センター（14件）」の専門職への相談もされている状況です。全体として、家族を軸に、地域資源と専門職が段階的に支えとなっています。



家族への質問⑦

周囲の人に望むこと（してほしいこと、してほしくないこと含め）はどのようなことですか？

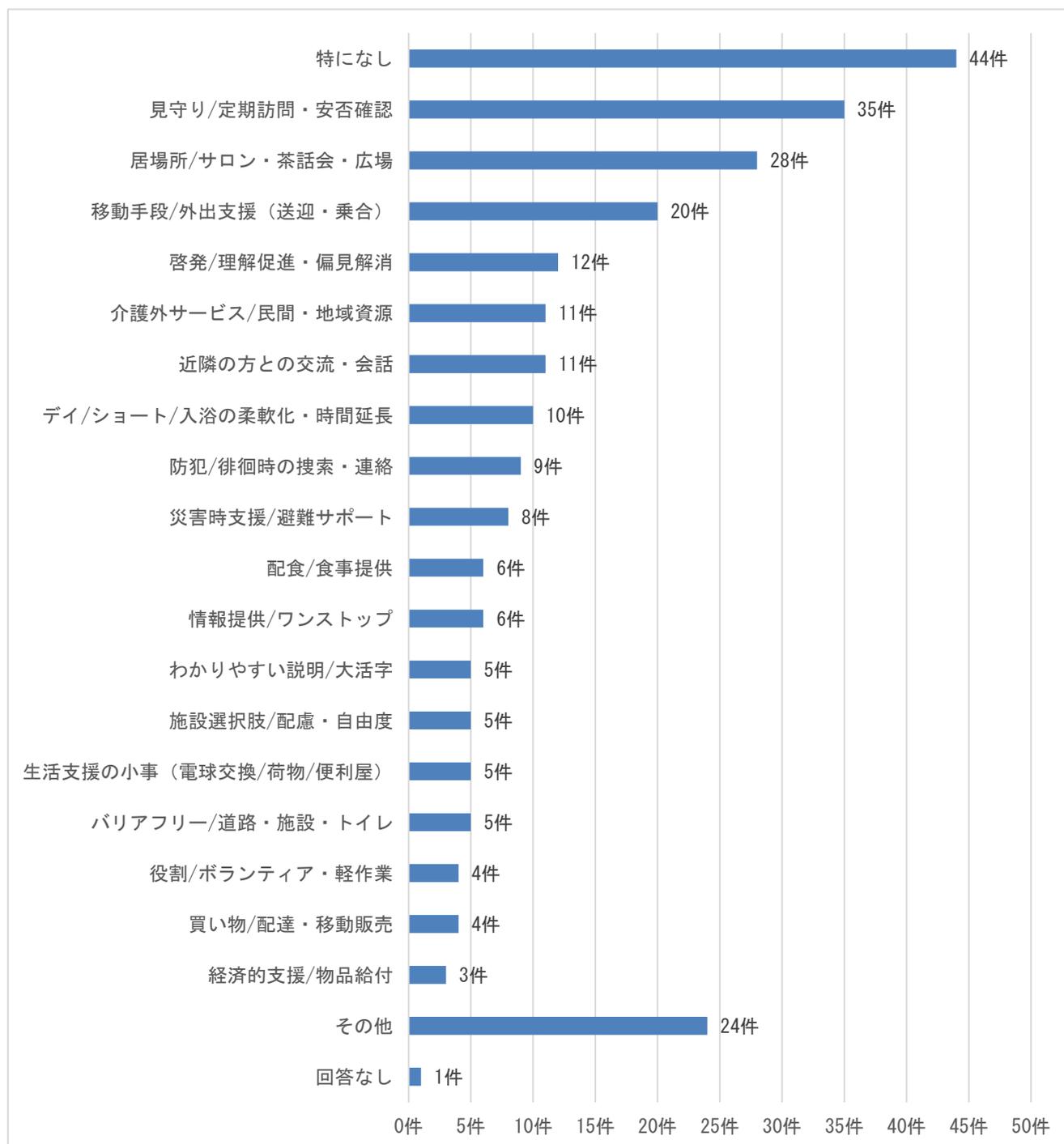
最多の「特になし(54件)」の中では現在の支援体制への満足を示すコメントがみられました。『してほしいこと』では「声かけ・話し相手（33件）」「見守り・安否確認（25件）」「理解と配慮（認知症の理解/穏やかな対応）（20件）」が上位で、日常での関わりの期待が示されており、「サービス継続/拡充（デイ/ショート/入浴）（19件）」「家族内の協力・分担（16件）」「運動/外出・活動機会の提供（8件）」など具体的支援も見られます。一方、『してほしくない』では「無断訪問/プライバシー侵害（5件）」「ラベリング/過度な気遣い(3件)」「無理強い/決めつけ/責めない（2件）」などが少数ながら挙げられています。全体的に、穏やかな見守りと対話が重視されています。



家族への質問⑧

もっと暮らしやすくなるために、今後の地域での支えや支援の仕組みであつたらいいなと思うものがありますか？

「特になし（44件）」が最多で、求められる仕組みとしては、「見守り/定期訪問・安否確認（35件）」「居場所/サロン・茶話会・広場（28件）」「移動手段/外出支援（送迎・乗合）（20件）」など本人の見守り支援や居場所づくり、外出支援などが挙げられています、また、「啓発/理解促進・偏見解消（12件）」「防犯/徘徊時の捜索・連絡（9件）」「災害時支援/避難サポート（8件）」など、認知症への理解促進や非常時の支援なども必要とされていることがうかがえます。



家族への質問⑨

介護中の家族の皆さんに伝えたいことはありますか？

「特になし（58件）」が最多である一方、「一人で抱え込まない/相談・連携（29件）」「介護保険の活用/サービス利用（15件）」「頑張りすぎない/自分をケア（12件）」が上位に並び、経験からの実感が表れています。「困難・感情：複雑さ/葛藤・大変さ（12件）」「情報収集/学び（11件）」「前向き/受容・ポジティブ（8件）」など、心構えや気持ちの整え方に触れる意見もあり、内容は多岐にわたっています。

